

8. 今後に向けて

市域全体の方向性

住宅などのさまざまな開発が進む中で、緑地が減少し、生き物の生息環境に大きな影響を与えることが心配されています。環境基本計画やみどりの基本計画に基づいて、地域の特性に合わせた施策を展開し、生き物の生息空間の確保やみどりと水辺に親しめる環境の整備を進めることが求められます。あわせて、学校教育や研修・講座などの場で自然への親しみを深めるための環境学習・環境教育を進めるとともに、市民・市民団体・事業者・行政によるネットワークづくりや協働による取組をいっそう進める必要があります。

生物保全の方向性

ミゾゴイ、イシガメ、トノサマガエル、ベニイトトンボ、ヤマサギソウなどの貴重な動植物については、種ごとに生息環境・歴史・環境変化への耐性などに違いがあります。生態系全体に目を配りつつ、生物多様性に配慮した総合的な施策や取組の推進が必要です。また、水田地帯を始めとした水辺や里山の保全に加え、千里丘陵における原風景の維持と回復など、人と自然とが共生する良好な環境の確保を図ることが求められます。

区域ごとの方向性

北千里区域：(青山台ブロック) 保護された里山林と小湿地を大切にしつつ、日当たりの維持やクズの除去などを進めることがポイントです。

(千里北公園ブロック) 小湿地・小池や草地の保全、鳴く虫とカヤネズミ生息地の保全回復、雑木林の保全回復などが必要です。

(苗圃ブロック) 貴重な植物の保護・保全の場として適切と思われます。

山田西区域：池や水の流れとそこに棲む生き物たち、竹林と雑木林の保全・回復が大切です。うまく行っているかどうかは、ヒメボタル、イトトンボ類、ミズイロオナガシジミなどが指標になります。

紫金山区域：コバノミツバツツジの増殖と雑木林の若返り、池と農地のビオトープが重要課題になると思われます。ツツジ科灌木類の種類数や、カブトムシなど甲虫類やオオムラサキの回復などが指標になります。

弘済院区域：高齢者施設や病院として、農地的な環境と風景を保ち増進することが効果的と思われます。果樹園の下でタヌキが遊ぶ姿を人々が眺められるような環境がイメージです。

片山公園区域：水生生物の生息空間を確保するための取組が必要です。また、緑豊かな公園でやっとたどりついた渡り鳥が休息できるように、樹木を豊かに保つとともに、猫の放置などを無くす必要があります。

千里丘区域：吹田ではもうほとんど例を見ない貴重な「池と谷戸のひとまとまり」があります。今の生態系を残し、それを維持するための取組を検討する必要があります。また、みどり自体も周囲とネットワークを保つ必要があります。